

8 リテラシー教育の実績

8.1 リテラシー教育の実施

(1) 図書館活用法※1

* 半期2単位（駿河台：春学期、生田：秋学期、和泉：2006年度より春学期・秋学期に開講、中野：2019年度より開講なし）

		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
中央図書館	履修者数	36	66	57	49	40	49	50	50	50
	開講数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	授業回数 ※2	15(11)	15(11)	14(10)	14(10)	14(8)	12(6)	14(8)	14(8)	14(8)
	担当講師数 ※3	15(12)	13(11)	13(8)	13(8)	14(10)	12(8)	15(11)	15(11)	17(13)
和泉図書館	履修者数	315	331	295	306	153	175	177	198	199
	開講数	4	4	4	4	2	2	2	3	2
	授業回数 ※2	56(40)	58(46)	56(36)	56(32)	28(16)	28(16)	28(16)	42(24)	28(16)
	担当講師数 ※3	27(25)	27(25)	29(23)	27(24)	21(19)	21(18)	21(18)	19(14)	15(12)
生田図書館	履修者数	29	27	76	36	27	46	49	43	58
	開講数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	授業回数 ※2	15(10)	14(9)	14(6)	14(6)	14(6)	14(5)	14(6)	14(6)	14(6)
	担当講師数 ※3	9(6)	10(6)	12(6)	13(7)	12(6)	11(5)	10(4)	13(6)	14(8)
中野図書館	履修者数	16	32	4	9					
	開講数	1	1	1	1					
	授業回数 ※2	14(10)	15(10)	14(9)	14(8)					
	担当講師数 ※3	7(5)	8(5)	8	7(3)					
履修者総数		396	456	432	400	220	270	276		

※1 2000年開講。2020年度、2021年度はコロナ禍によりオンライン授業で実施。2022年度からメディア授業。

※2 カッコ内の数字は職員が担当した回。ただし、教員とともに担当した回は除く。

※3 複数のキャンパスを担当した場合はそれぞれに計上。カッコ内の数字は職員。

(2) ゼミツアー *フリーツアー（すべての利用資格者対象）含む

		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
中央図書館	回数 ※1	61	59	60	62	66	0	3(46)	50(25)	41(24)
	履修者数	620	719	725	749	754	0	6	568	474
和泉図書館	回数	169	150	134	123	142	0	0	0	0
	履修者数	2,999	2,902	2,432	2,405	2,656	0	0	0	0
生田図書館	回数 ※1	18	13	23	23	20	12	(13)	20(10)	17(7)
	履修者数	211	132	261	272	237	354	262	358(125)	384(85)
中野図書館	回数 ※1	20	28	20	18	13	29	(14)	13(11)	10(2)
	履修者数	265	361	308	238	141	-	61	70(662)	76(20)

※1 カッコ内は動画提供数。

(3) 出前講義 *「図書館活用法」を除く教室授業、図書館以外施設授業など

		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
中央図書館	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	履修者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和泉図書館	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	履修者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生田図書館	回数	10	18	18	18	12	12	12	10	10
	履修者数	422	384	405	417	311	407	296	331	312
中野図書館	回数	2	3	3	9	10	0	0	0	0
	履修者数	40	50	71	216	225	0	0	0	0

(4) 各種講習会 * 情報・文献検索講習会、DB 講習会、テーマ別講習会、グループガイダンスなど

		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
中央図書館	回数	18	20	4	10	2	0	0	0	0
	参加者数	190	107	9	73	7	0	0	0	0
和泉図書館	回数	22	19	8	5	8	0	0	0	0
	参加者数	291	147	101	145	186	0	0	0	0
生田図書館	回数	8	1	2	13	18	2	2	2	4
	参加者数	121	7	62	320	1,026	121	61	122	171
中野図書館	回数	10	4	4	6	8	0	0	0	0
	参加者数	84	11	9	9	18	0	0	0	0

(5) オリエンテーション * 新入生、新任教員、三年次、留学生など

		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
中央図書館	回数	12	10	7	8	7	0	0	0	0
	参加者数	893	1,148	1,278	1,094	163	0	0	0	0
和泉図書館	回数	7	11	13	13	12	0	0	0	0
	参加者数	5,677	5,093	7,881	5,222	5,206	0	0	0	0
生田図書館	回数	6	4	4	4	4	0	0	0	0
	参加者数	1,595	1,612	1,612	1,562	1,708	0	0	0	0
中野図書館	回数	5	7	8	8	6	0	1	1	1
	参加者数	665	784	889	806	739	0	20	19	33

(6) 見学・視察 * 各種団体、個人、学校など

		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
中央図書館	回数 ※ 1	95	88	97	11	46	0	1	233	392
	参加者数	3,108	3,027	3,302	843	1,792	0	5	3,502	12,281
和泉図書館	回数 ※ 1	88	54	54	47	58	0	5	19	58
	参加者数	2,134	2,829	2,829	2,139	1,530	0	64	742	3,413
生田図書館	回数 ※ 1	3	2	2	1	1	0	0	0	0
	参加者数	2,972 ※ 2	453	453	516	293	0	0	0	143
中野図書館	回数 ※ 1	13	3	7	3	5	0	0	-	-
	参加者数	3,089	2,625	2,718	2,277	1,034	0	233	1,609	2,351

※ 1 個人での見学は含まない

※ 2 オープンキャンパスの参加者数を含む

8.2 全学共通総合講座「図書館活用法」

《春学期》

駿河台キャンパス

2023年度全学共通総合講座 講座計画書（シラバス）					
講座 名			コーディネーター		
図書館活用法（メディア授業）			学部・氏名		
開講キャンパス			経営学部 長野 史希		
駿河台			2		
単 位			春学期		
開講期			曜 日		
2			火		
時 限			4		
1 授業の概要・到達目標					
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようにする（図書館リテラシー） 2. さまざまな情報、文献、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようにする（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文献、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようにする（学術リテラシー） 4. 就職活動に役立つ企業情報を入手できるようにする					
2 授業内容（日程・テーマ・担当者）					
回	日 程	テーマ	所属・役職	氏 名	担当者
1	4月11日	イントロダクション（講座の概要、成績評価方法等の説明） 大学図書館への招待（明治大学図書館の役割、設備・資料・サービス）	所属・役職 経営学部専任准教授 社会情報学専攻 准教授 長野 史希	氏 名 久保 美奈子・小倉 さなえ	
大学で学ぶためには、図書館を利用することが不可欠です。図書館の膨大な蔵書は、豊かな教養、深い知識を養ううえでも貴重なものといえます。初年度では、まず大学図書館の役割や重要性を明らかにしたうえで、「図書館活用法」という授業科目の意義、内容、レポート提出、成績評価などについて説明します。そして後半では、中央図書館事務局長より明治大学図書館の概要や中央図書館の設備やサービスを主に紹介し、図書館の魅力を引き出していきます。					
2	4月18日	図書館ツアー（図書館の概要とバックヤード紹介）	所属・役職 図書館職員	氏 名 大隅 功・都 友弥	
大学図書館の施設やサービス、資料の特徴を知り、それらの利用方法を理解することは、大学図書館の存在意義を理解することの第一歩です。この回では、前週に引き続き図書館の概要を説明後、館内施設の概要を見ることがより理解を定着させます。さらに、書架を見ることがないバックヤードを見ることが、大学図書館の業務がどのようなプロセスで行われているかを紹介していきます。					
3	4月25日	レポート・論文の作成方法	所属・役職 経営学部専任准教授	氏 名 長野 史希	
レポート・論文は、自分の調査・研究内容について論理的に記述し、公表し、他者の理解を得るために書かれます。大学教育ではレポート・論文の作成が重視されており、この授業ではその作成方法について説明します。また、先行研究を調べることの大切さ、著作権意識した書き方などについて取り上げます。					
4	5月9日	図書館資料の活用と著作権	所属・役職 情報コミュニケーション学部専任教授	氏 名 金村 哲也	
学習、研究、論文・レポートの作成においては、多くの図書や雑誌（論文）、インターネット上の情報も利用します。これらの著作権・情報の利用にあたっては、「著作権」について十分理解しておく必要があります。この講義では、著作権法の概要、著作権法に沿った文庫・情報の適切な利用方法を学びます。					
5	5月16日	研究と図書館	所属・役職 経営学部専任講師	氏 名 平塚 伸弥	
研究者として、数多くの図書や雑誌、データなどを利用することは不可欠です。そこで、教員や大学院生の研究活動に図書館がどのように関わっているのか、特に論文を作成する際に図書館を活用することがいかに重要であるかについて説明します。					
6	5月23日	書物の読み方	所属・役職 経営学部専任准教授	氏 名 野田 寛彦	
書物の読み方にも、その場にいながらにして様々な事象を体験できるということがあります。現在の社会では他国の文化に理解を深めるとともに多言語と重要になってきています。いくつかの書籍を紹介しながら、一冊は自国の文化の理解や言葉の奥に秘められていることについて学びます。					
7	5月30日	学術情報・図書館の現状と課題	所属・役職 図書館職員	氏 名 矢野 恵子・荒井 綾	
図書館や学術情報をめぐる現在の状況・問題と課題を知り、問題の背景を理解し、今後の学術情報のあり方について考えます。学術情報流通、コンソーシアム、オープンアクセスといったテーマを取り上げる予定です。					
8	6月6日	文庫・情報の探し方 (1) 文献情報取扱い、図書館情報の入手と利用【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 鈴木 恭子・松岡 久美子	

和泉キャンパス

2023年度全学共通総合講座 講座計画書（シラバス）					
講 座 名			コーディネーター		
			学部・氏名		
図書館活用法（メディア授業）			文学部 牧野 洋司		
開講キャンパス			文学部 牧野 洋司		
和泉			2		
単 位			春学期		
開講期			曜 日		
2			火		
時 限			3		
1 授業の概要・到達目標					
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようにする（図書館リテラシー） 2. さまざまな情報、文庫、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようにする（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文庫、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようにする（学術リテラシー）					
2 授業内容（日程・テーマ・担当者）					
回	日 程	テーマ	所属・役職	氏 名	担当者
1	4月11日	イントロダクション （講座の概要、成績評価方法等の説明）	所属・役職 文学部専任教授 社会情報学専攻准教授	氏 名 熊生 知子	
本講座は、大学での学習に不可欠な図書館の活用に必要な知識とスキルの習得を目指します。書誌・索引・辞書・事典などのリファレンス資料に関する知識とその検索の技法について取り上げます。さらに、特定の課題に関するレポートの作成のために必要な情報や知識および文庫の検索方法について解説します。最終的には、検索、入手された文庫（図書や雑誌記事、論文）をもとに、レポートの作成を求めます。また、成績評価について説明します。					
2	4月18日	人間社会における知識と図書館の役割	所属・役職 成蹊大学非常勤講師	氏 名 熊生 知子	
近年、「学び」の質の転換が求められています。情報との相対的な距離をはかり、そのうえで新しい知見を発見し、アウトプットしていくこと。しかし、一方で、経済格差が広がっており、「学び」の格差につながろうとしています。全ての人間に開かれた「図書館」は平等な「学び」に不可欠です。図書館の役割の一端をお伝えします。					
3	4月25日	知的思考と読書	所属・役職 成蹊大学非常勤講師	氏 名 熊生 知子	
情報あふれる現代、どのように情報を批判的に検討し、活用していくべきでしょうか。そのためには、情報をできるだけ正確に理解する必要があります。それこそが、知的思考を養うための第一歩となります。この回では、情報を批判的に検討するスキルの一部を紹介いたします。					
4	5月9日	レポートの作成と図書館情報資源の活用	所属・役職 文学部専任教授	氏 名 長野 史希	
レポート・論文を作成する際には、課題を設定し、先行研究を調査する必要があります。その上で、必要な情報・資料を収集し、その分析・整理を行います。誰もが発見できるような情報・資料を収集し、法に則って図書館が扱う資料・情報資源の利用方法を学びます。あわせて、レポートや論文で、文庫の活用に関するテーマの理解を深めます。					
5	5月16日	図書館サービスと著作権	所属・役職 文学部専任教授	氏 名 青柳 英治	
この授業では、レポートや論文の執筆に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法に則って図書館が扱う資料・情報資源の利用方法を学びます。あわせて、レポートや論文で、文庫の活用に関するテーマの理解を深めます。					
6	5月23日	文庫・情報の探し方 (1) 図書①【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 久保 美奈子・西脇 亜由子	
明治大学図書館蔵書システム（Web-OPAC）の検索方法、検索結果である目録・分類、雑誌記事や配属情報などデータベースの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効果的に使いこなせるようになります。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。					
7	5月30日	文庫・情報の探し方 (2) 図書②【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 久保 美奈子・西脇 亜由子	
前回の内容をふまえて、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。					
8	6月6日	文庫・情報の探し方 (3) 雑誌①【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 吉田 千彦・杉野 美和	
図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌データベース、所蔵データの読み取り方の説明・演習を行います。さらに雑誌の利用方法や参考文献・引用文庫の読み取り方についても学びます。このことにより、効率的に雑誌を探し出すことができるようになります。					

9	6月13日	文庫・情報の探し方 (2) 雑誌・論文情報の入手と利用【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 松岡 久美子・小倉 さなえ
研究成果は最初には雑誌で公開されることが多く、最新の知見を取り入れるためには、雑誌論文の活用が不可欠です。本講では論文データベースの検索、参考文献リストからの論文探知、入手した論文で参考文献リストを作成する等の演習を通じて、雑誌論文を効率的に探し、入手する方法を学びます。				
10	6月20日	文庫・情報の探し方 (3) レファレンス情報と新聞記事・企業情報 の入手と利用【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 久保 美奈子・小倉 さなえ
レファレンス情報にはどのようなものがあり、どのように活用できるかを解説します。また新聞や新聞記事の検索方法、そのように活用できる関係性を見ながら理解します。そして、これらの資料を使った企業情報の探し方を演習を通して習得し、就職活動に役立てられるようにします。				
11	6月27日	文庫・情報の探し方 (4) 人文学データベースの紹介と電子情報の活用①（国内編）【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 西脇 亜由子・矢野 恵子
人文学系のデータベースを目的に合わせて使い、必要な情報を入手できるように、課題に沿って紹介します。データベースの用途や特性、適切な利用方法を理解し、簡単な調査に活用できるようにします。第12課と連続する内容になっています。				
12	7月4日	文庫・情報の探し方 (5) 人文学データベースの紹介と電子情報の活用②（海外編）【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 西脇 亜由子・矢野 恵子
人文学系のデータベースを目的に合わせて使い、必要な情報を入手できるように、課題に沿って紹介します。データベースの用途や特性、適切な利用方法を理解し、簡単な調査に活用できるようにします。第11課と連続する内容になっています。				
13	7月11日	文庫・情報の探し方 (6) 図書館における情報のあり方（情報の組織化、その他の検索テクニック）【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 小野 聡・矢野 恵子
図書館サービスの背景にある「情報の組織化」の意味と必要性について、特に図書館における「目録」「分類」の仕組みを中心に説明します。さらに以上をもとにした「明大OPACの「分類検索」・「件名検索」」について学びます。				
14	7月18日	まとめ（文庫・情報の入手からレポート・論文の作成へ）と総合テスト a: 小テスト	所属・役職 経営学部専任准教授 長野 史希	氏 名 鈴木 恭子・小倉 さなえ・熊生 知子
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、社会に出るうえで必要な技術です。それを効果的なスキルとして身につけるために、最後に総まとめとして、これまで学んだ文庫・情報の探し方や著作権等について確認します。				
3 履修上の注意				
本授業は、講義（概論）と演習を組み合わせて、知識の習得だけでなく活用する術を身に付けることを目指しており、教員と図書館の職員が担当します。演習では、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND利用講習会を受講済みであることを必須とします。				
すべての回は、講義動画をWeb1 Meijiシステムのクラスウェアを通じて配信するメディア授業（オンデマンド型）で実施します。講義動画は原則として前日までに配信し、当該学期中の視聴が可能です。				
出席は、第2回～第13回に行う小課題、第14回に行う総合テストの提出により確認します。小課題は、毎回の講義動画、演習動画を視聴し、実施したうえで取り組んでください。				
また、クラスウェアのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設けます。				
期間・相談については、(1)ディスカッション機能、(2)小課題の自由記述欄、(3)図書館レファレンスカウンターで、随時、受け付けます。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した準備（本を読む、実際にツールに触れてみるなど）をして授業に臨んでください。				
また、授業後は、講義内容・配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。				
5 教科書				
特に定めません。教材としてレジメ等を用意します。				
6 参考書				
「これからレポート・卒論を書く君のために」第2版、酒井聡恵著（2017、共立出版、ISBN9784320065983） 「アカデミック・スキルズ：大学のための知的技術入門」第9版、佐藤明彦著（2020、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766426564） 「デジタル情報資源の検索」増訂第5版、高橋裕子著（2014、京都府立総合情報学研究会、ISBN9784820413236） 「図書館活用法：検索の基本は図書館に」新訂第4版、藤田昭子著（2020、日外アソシエーツ、ISBN9784816928154） 「文庫検索法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本」第9版、毛利弘和著、DBジャパン編（2021、DBジャパン、ISBN978481401725）				
7 課題に対するフィードバックの方法				
第2回～第13回に行う小課題は、On-line Meijiシステム上で毎週、講義または模範解答を提出します。第14回に行う総合テスト、期末レポートについては、On-line Meijiシステム上で学期中に講義を提出します。				
8 成績評価の方法 ※レポート・小テスト・定期試験・平常点の評価は、それらの割合を明示のこと				
平常点（25%）、総合テスト（25%）、期末レポート（50%）を総合的に判断します。平常点は、第2回～第13回に行う小課題、期				

《秋学期》
和泉キャンパス

2023年度全学共通総合講座 講座計画書（シラバス）						
講座名			コーディネーター			
			学部・氏名			
図書館活用法【メディア授業】						
開講キャンパス		単 位	開講期	曜 日	時 限	
和泉		2	秋学期	火	3	
1 授業の概要・到達目標						
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2. さまざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）						
2 授業内容（日程・テーマ・担当者）						
期 日 程	テーマ		担当者			
1 9月 26日	イントロダクション （講座の概要、成績評価方法等の説明）		所属・役職	文芸学部専任教授 和泉図書館長兼 学芸部長		
			氏 名	堀本 知子 山本 洋平		
本講座は、大学の学習や研究に不可欠なスキルや情報の活用に必要な知識とスキルの習得を目標とし、資料探し、読書、事例鑑賞などのワークショップ形式による知識とスキルの習得に注力しています。情報ととの相対的な距離感をはかり、そのうえで新しい知見を発見し、アウトプットしていくこと、しかし、一方で、経済格差がもたらす「学び」の格差につながるということです。全ての人に開かれた「図書館」は、平等な「学び」に不可欠です。図書館の役割と意義を再認識します。						
2 10月 3日	人間社会における知識と図書館の役割		所属・役職	和泉大学非常勤講師		
			氏 名	堀本 知子		
3 10月 10日	知的思考と読書		所属・役職	和泉大学非常勤講師		
			氏 名	堀本 知子		
情報から知る、知ること、どのように情報を活用していくべきなのでしょうが、そのためには、情報と向き合えるように読書する必要がある。それこそが、知的思考を育む第一歩となります。この回では、情報を読み取るスキルの一歩を紹介します。						
4 10月 17日	レポートの作成と図書館情報資源の活用		所属・役職	文芸学部専任教授		
			氏 名	牧野 洋司		
レポート・論文を作成する際には、情報を探し、実行研究を調査する必要があります。その上で、必要な情報・資料を収集し、その分析・調査を行います。論文・情報類のあるレポートを作成することはありますが、そのためにほうほうとしてほしいよう。レポート作成の段階における注意事項や、各種資料への向き合い方を学びます。						
5 10月 24日	図書館サービスと著作権		所属・役職	文芸学部専任教授		
			氏 名	青柳 英治		
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にたいし、理解が求められたい著作・資料を教えます。書目・権利関係のあるレポートを作成することはありますが、そのためにほうほうとしてほしいよう。レポート作成の段階における注意事項や、各種資料への向き合い方を学びます。						
6 10月 31日	文獻・情報の探し方 (1) 図書【演習】		所属・役職	図書館職員		
			氏 名	久松 康子・西脇 亜由子		
明治大学図書館蔵書検索システム(Web-OPAC)の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけて、図書館の蔵書を効率よく使いこなせるようにします。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。						
7 11月 14日	文獻・情報の探し方 (2) 図書【演習】		所属・役職	図書館職員		
			氏 名	久松 康子・西脇 亜由子		
前回の内容をふまえて、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。						
8 11月 21日	文獻・情報の探し方 (3) 雑誌論文【演習】		所属・役職	図書館職員		
			氏 名	吉田 千恵・杉谷 菜和		
図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌記事データベース、所蔵データの読み取りの説明・演習を行います。さらに雑誌の利用方法や参考文献・引用文献の読み取り方についても学びます。このことにより、効率よく雑誌を探して利用できるようになります。						

9	11月28日	文獻・情報の探し方 (4) 雑誌論文②【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 吉田 千恵・杉谷 菜和	図書館職員 吉田 千恵・杉谷 菜和
OPACでは、雑誌を「検索する」ことはできても、雑誌の中に掲載されている論文・記事と直接接することはできません。論文・記事単位での検索を行うためには、OPACとは別の検索ツールを使用する必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、必要とする論文を簡単に見つけ、入手できるようになります。					
10	12月5日	文獻・情報の探し方 (5) ウェブリソース資料【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 久保本 和義・堀野 満子	図書館職員 久保本 和義・堀野 満子
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率よく調べものをするのに適したウェブリソース資料が数多く存在します。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この回では、ウェブリソース検索（参考図書）およびオンラインのウェブリソース資料を活用して、事例や文脈について調べる方法、また論文・レポートのテーマ設定をした基本情報を入力する方法を学びます。					
11	12月12日	文獻・情報の探し方 (6) 新聞【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 堀野 満子・松崎 俊行	図書館職員 堀野 満子・松崎 俊行
新聞は印刷物のほかデータベース等を使って検索・閲覧することができます。うまく使えば必要な情報を調べられるだけでなく、世論などの動向における「空気」のようないち早く知ることができる有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞データベースの適正な利用方法を理解し、また使いこなす技術が身につくようになります。					
12	12月19日	文獻・情報の探し方 (7) インターネット【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 堀本 正美・堀ノ谷 美知子・山本 都夏	図書館職員 堀本 正美・堀ノ谷 美知子・山本 都夏
インターネットから正しい情報を取得するための知識と技術を身につけるため、インターネットやWebliに活用するための基本的なことを学び、検索エンジンでの仕組みや検索機能、インターネット情報の評価などについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブックについても説明・演習を行います。					
13	1月9日	文獻・情報の探し方 (8) （1）～（7）まとめ【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 関口 直枝・堀野 満子	図書館職員 関口 直枝・堀野 満子
これまでの授業や学んだ様々な文獻・情報の探し方を振り返ります。それらを総合的に活用できるようにこれまでの演習を行います。日々の学習や研究に役立つ文獻検索技術が身につくよう改めて練習し、自身の調査・検索におけるポイントを見つけて出し、さらにステップアップできる機会としてください。					
14	1月16日	まとめと総合テスト a：テスト、b：まとめ	所属・役職 文芸学部専任教授 和泉図書館長	氏 名 佐藤 博司 山本 洋平	文芸学部専任教授 和泉図書館長 佐藤 博司 山本 洋平
あるテーマについて、文獻を探索し研究・調査のうえ、自分の考えをまとめて表現することは、レポートや論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確かなスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまでの授業で学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。					
原簿上の注意					
本書では、「講義（概論）」と演習を組み合わせた、知識の習得だけでなく活用する術を身につけることを目指しており、教員と図書館の職員が担当します。演習では、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND利用講習会を受講済みであることを必須とします。 すべての回は、講義動画をOno! Meijiシステム上のクラウドを介して配信するメディア授業（オンデマンド型）で実施します。講義動画は原則として前日までに配信し、当該学期中の履修が可能です。 出席は、第2回～第13回を行う小課題、第14回を行う総合テストの提出により確認します。小課題は、毎回すべての講義動画、演習問題を視聴、実施したうえで取り組んでください。 また、クラウド上のディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設けます。 質問・相談については、(1)ディスカッション機能、(2)小課題の自由記述欄、(3)図書館リファレンスカウンターで、随時、受け付けます。					
準備学習（予習・復習等）の内容					
各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した準備（本を読む、実際にツールに触れてみるなど）をして授業に臨んでください。授業後は、講義内容・配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。					
教科書					
特に定めません。教材としてレジュメ等を用意します。					
参考書					
『これからレポート・卒論を書く若者のために』第2版、酒井聡樹著（2017、共立出版、ISBN9784320005983） 『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技術入門』第3版、佐藤望編著（2020、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766426564） 『デジタル情報資源の検索と活用』第2版、佐藤望編著（2014、京都府立総合情報センター、ISBN9784834113280） 『図書館活用術：検索の基本は図書館に』新訂第4版、藤田節子著（2020、日外アソシエーツ、ISBN9784816928154） 『文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本』第3版、毛利和弘著、DBジャパン編（2021、DB ジャパン、ISBN 9784804101725）					
課題に対するフィードバックの方法					
第2回～第13回を行う小課題は、Ono! Meijiシステム上で配信、講評または履修報告を提出します。 第14回に行う総合テスト、期末レポートについては、Ono! Meijiシステム上で学期末に講評を提出します。					
成績評価の方法 ※レポート・小テスト・定期試験・平常点の評価は、それらの割合を明示すること					
平常点(25%)、総合テスト(25%)、期末レポート(50%)を総合的に判断します。平常点は、第2回～第13回を行う小課題、期末に行う授業評価アンケートに基づき評価を行います。 なお、授業形式での成績評価は、以下に該当する者の成績評価は行いません。 ・小課題を4回以上提出していない者 ・総合テストの未受験者 ・期末レポートの提出者					

生田キャンパス

2023年度全学共通総合講座 講座計画書（シラバス）						
講 座 名				コーディネーター		
				学部・氏名		
図書館活用法【メディア授業】				理工学部 山本 洋平		
開講キャンパス	単 位	開講期	曜 日	時 限		
生田	2	秋学期	金			
1 授業の概要・到達目標						
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー）						
2. さまざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー）						
3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）						
2 授業内容（日程・テーマ・担当者）						
期 日 程	テーマ	担当者				
1 9月22日	イントロダクション（講座の概要、成績評価方法等の説明）	所属・役職	理工学部専任教授 和泉図書館長	氏 名	山本 洋平 佐藤 博司	
	教育・研究支援機関としての図書館は、大学の施設の中でも最も多岐多面的な機能を持っている。第1回目は本講座の概要、成績評価方法に関する説明等に加え、「有意義な大学生活を送るための上手な図書館の利用方法」についてもお話しします。					
2 9月29日	レポート・論文の書き方	所属・役職	理工学部専任教授	氏 名	山本 洋平	
	レポートや論文を作成する際には、論者が書き手にならないように先行研究を参照する必要があります。授業では、論文の構成方法に加え、先行研究をどのようにレポートや論文の中に取り入れ、読者の役に立つように書くこともお話しします。先行研究の趣旨を正しく理解し、適切な脈絡において引用すること、参照箇所を明示しておくこと等が大切です。					
3 10月6日	文獻・情報の探し方 (1) 図書【演習】	所属・役職	図書館職員	氏 名	佐藤 博・安川 洋一	
	明治大学図書館蔵書検索システム(Web-OPAC)の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけて、図書館の蔵書を効率よく使いこなせるようにします。また、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて、具体的な説明・演習を行います。					
4 10月13日	本と教養 1	所属・役職	理工学部専任教授	氏 名	清岡 晋吉	
	本と教養1の担当者はフランス文学、映画および都市文化の研究者。フランス映画に描かれる都市を、特に移民問題、宗教的対立や地域問題といった具体的な問題から論じました。本講義では、「読解する」対象は本だけではなく、都市や映像作品もその対象となることを、映画『ゴジラ』等を参照しながら考えてゆく。					
5 10月20日	文獻・情報の探し方 (2) 雑誌論文【演習】	所属・役職	図書館職員	氏 名	佐藤 博・青木 朝子	
	図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌記事データベース、所蔵データの読み取りの説明・演習を行います。さらに雑誌の利用方法や参考文献・引用文献の読み取り方についても学びます。このことにより、効率よく雑誌を探して利用できるようになります。					
6 10月27日	文獻・情報の探し方 (3) 雑誌論文②【演習】	所属・役職	図書館職員	氏 名	佐藤 博・青木 朝子	
	OPACでは、雑誌を「検索する」ことはできても、雑誌の中に掲載されている論文・記事と直接接することはできません。論文・記事単位の検索を行うためには、OPACとは別の検索ツールを使用する必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、必要とする論文を簡単に見つけ、入手できるようになります。					
7 11月10日	本と教養 2	所属・役職	理工学部専任教授	氏 名	渡辺 剛 素	
	本と教養2の担当者はアメリカ文学・文化の研究者。小説家トマス・ピンチンを軸とするのではなく、広くメディアの歴史やデザインに関心をもち、自らの本を制作している。読書家たちをとおして、モノになる技術を見つけるながら、書物と文化との関係を再考する。					
8 11月17日	本と教養 3	所属・役職	理工学部専任教授	氏 名	倉石 健乃	
	ヒトは獲得した知識をもっとも世界を記述するのに、もっぱら書物と図像に頼ってきた。それらをもっともコンパクトかつポータブルなかつたパッケージにしたものが、本だ。本こそが教養の基礎であり、知的探求の最良の道具であることは、個人情報保護の時代になっても変わらない。シリウスという本をとおして、本と世界との関係について、本と世界との関係を再考する。					